

## 木造住宅・建築物等の整備推進に関する調査・普及・技術基盤強化 成果報告書

事業の名称	木造住宅・建築物等の整備推進に関する調査を行う事業
事業者情報	事業者名：一般社団法人木を活かす建築推進協議会 事業担当者名：岡林 祥一 連絡先：03-3560-2882
補助事業の区分	木造住宅・建築物等の整備推進に関する <input checked="" type="radio"/> ①調査を行う事業                      ②普及を行う事業                      ③技術基盤強化を行う事業 以上の①から③の中から該当するものを選択し、○をつけて下さい。）
<p>1. 事業の概要</p> <p>① 企画委員会による調査事業</p> <p>「木のまち・木のいえ推進フォーラム」の運営に関し、その幹事会で議論される内容について検討並びに議事の進行を促進するための検討案の作成等を行うために、企画委員会を運営した。</p> <p>② 人材育成 WG による調査事業</p> <p>②-1 人材育成 WG による調査事業</p> <p>人材育成 WG では、「木のまち・木のいえ推進フォーラム」幹事会から寄せられた意見に基づき、木材・木造建築物の担い手育成のための育成マップを作製するとともに、その基礎教材を既刊の書籍等から選別する作業を行った。また、その他の基礎教材として前年度から必要とされていた、木材・木造の基礎教育を受ける時間がない人のための基礎編 DVD の作成を行った。</p> <p>②-2 林野庁との共同プロジェクト「木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業」の執行事業</p> <p>国交省・林野庁共同プロジェクト「木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業」において、事務局として募集要項の作成、募集、学識経験者による審査委員会の設置・拠点選定作業、担い手育成アドバイザーの設置ならびに選定拠点への派遣、中間発表会等を行った。</p> <p>②-3 木造建築の担い手育成海外先進地調査事業</p> <p>木造建築の担い手育成に当たり、日本で特にその減少が予想されている大工職の育成を中心として、90年代よりその育成に力を注いで来たイギリスおよびドイツにおいて、その育成のための具体的なプログラムと仕組みや育成資金の集金・分配システム等の実態のヒヤリング調査を行った。</p> <p>③ 企画 WG による調査事業</p> <p>企画 WG は、木造建築物全般を対象としてその普及おける課題を抽出・整理し、具体的な解決手法についての情報を、広く提供することを目的として、①問題点を明らかにして共通認識を醸成する課題整理マップの作成、②現段階で重点的に取り組むべき重点キーワードの抽出と解説の作成、③各分野の専門家へのインタビューを行い基礎資料としてのまとめ作業等の事業を行った。</p> <p>④ 中大規模 WG による調査事業</p> <p>中大規模木造建築 WG は、公共建築物等木材利用促進法の施行を受け、中大規模木造の推進における障害の実態を把握し、問題解決に向けた有効な情報提供を行うために、以下の3つの活動を行った。</p> <p>①幹事会やリレーフォーラムで示された幹事の意見からの中大規模木造の課題の抽出と整理。</p> <p>②フォーラム会員である設計者等に向けたアンケートによる、問題点と今後の課題の整理。</p> <p>③中大規模木造の施主へのヒヤリング調査の分析による課題の整理</p>	

※本報告書は各ページ毎に1つの項目を記載することとし、全3ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は2枚を限度に本報告書に添付すること。

事業の名称 木造住宅・建築物等の整備推進に関する調査を行う事業

2. 事業で得られた成果

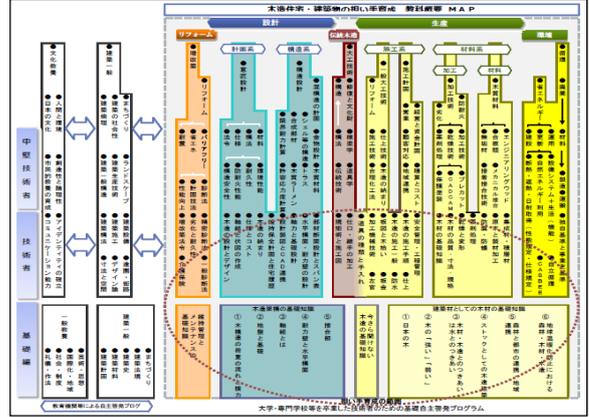
① 企画委員会による調査事業の成果

「木のまち・木のいえ推進フォーラム」の運営に関し、その幹事会で議論される内容について検討並びに議事の進行を促進するための検討案により、毎回、有益な議論を得てその内容を、HP で公開することができた。

② 人材育成 WG による調査事業

②-1 人材育成 WG による調査事業の成果

木材・木造の担い手育成のための指針及びマップを作製し、HP で内容を一般に公開した。  
またその基礎教材として位置づけられている3分野において基礎講座 DVD9枚(5セット)と、それを補足する基礎編 DVD8枚(6セット)を500枚作成し、各担い手育成拠点等に配布した。



②-2 林野庁との共同プロジェクト「木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業」の成果

6月30日～8月20日までの募集期間に29か所からの応募があり、審査委員会により一次審査で13拠点到絞り込み二次ヒヤリングで10拠点を選定した。事業の推進では、各拠点到アドバイザーを派遣し、カリキュラムや教材の作成、講座・講習会の開催等への指導を積極的に行い、大工育成分野3拠点、木材加工・流通分野4拠点、学生の木造教育分野3拠点的成果を発表会で公開した。

②-3 木造建築の担い手育成海外先進地調査事業の成果

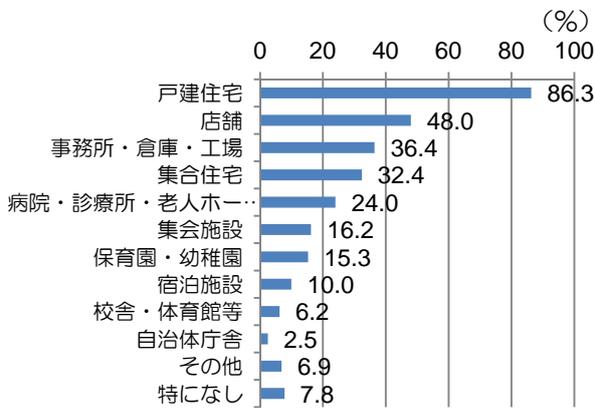
先進地調査の成果を報告書並びに概要版にまとめ、フォーラム幹事会で発表した。また、HP で広く公開すると共に、「担い手拠点発表会」で資料として参加者に配布した。

③ 企画 WG による調査事業の成果

重点キーワードを下記の19項目に整理し、それぞれの課題整理マップの作成、並びに各分野17名の専門家へのヒヤリングのまとめ等の成果を得た。

- |  |
|--|
| 01. 全般（木造を語る時の視点）、02. 地域（木造を語る時の地域とは何か）、03. 受注者・工務店、04. 積算・発注、05. 木材調達、06. 品質、07. 流通、08. 規制、09. 設計・設計法、10. 用途別、11. 技術開発、12. 森林、13. 環境、14. 長持ち・メンテ・リフォーム、15. 建築士、16. 人材育成、17. 文化、18. 社会制度・組織等、19. 情報消費者教育 |
|--|

④ 中大規模 WG による調査事業



設計者等に向けたアンケートでは、321件の有効な回答を得て、詳しくは報告書となるが、以下のような成果等を得た。回答者は施工会社が約39%、設計事務所が25%で、6割は小規模経営の会社の社員であった。役割は設計、施工管理の2つで全体約2/3を占めており、木造建築物のここ10年で手がけた具体的な実績は、グラフのようになり、かなり幅広い建築物が木造で建てられていることが判明した。

※本報告書は各ページ毎に1つの項目を記載することとし、全3ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は2枚を限度に本報告書に添付すること。

3. 今後の展望及び成果の普及方法

① 企画委員会による調査事業

「木のまち・木のいえ推進フォーラム」幹事会は、木材・木造に関わる各界の有識者の集まりであり、その議論は、これからの木造建築物の推進に欠かすことのできない内容となっている。今後はさらに議論を深め、木造建築物の推進に関わる様々な分野での提言につながる事が期待できる。

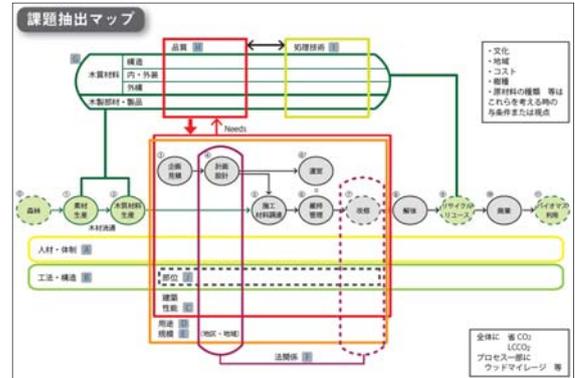
② 人材育成 WG による調査事業

これまでの検討結果や幹事会での議論を経て、関係団体においては木造の担い手育成に関する共通認識が醸成されてきている。来年度は、「木造建築の担い手育成海外先進地調査」の成果を踏まえ、人材育成 WG を拡大し、全建総連や住団連等の参加を得て、住宅業界全体における人材育成に関するコンセンサスをつくり上げ、人材育成のための仕組みづくりの基礎へつなげて行く時期となってきている。また、人材育成事業は、その結果が見える形で早急に得られるものではなく、試行的に進めている「木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業」においても、成果が段階的に得られる部門や他の支援が得にくい部門については、その先導的な取組みを持って、さらに推進を補助していくことが望ましい。基礎教材である DVD の製作についても、収録のための講習会は、受講者が定員をオーバーする状況で、DVD の希望者も多い。適正な情報公開による継続的な技術者育成が望まれている。



③ 企画 WG による調査事業

木造・木造建築の推進に当たりその議論の混乱の原因として、ベースとなる共通認識の欠如が挙げられる。構法により要求される木材品質が異なるなどの面を明らかにするために、マップを公開し建設的な議論へつなげたい。また、キーマンヒヤリングの成果は基礎資料としてその内容を広げる必要がある。



④ 中大規模 WG による調査事業

I から X II の 10 のカテゴリーに分類された 29 課題に整理した。この中には、法制度の見直しなど、解決に時間を要するものもあるが、地道な調査研究や適切な実験等により解決へ向かう課題も多く、今後、解消に向けたスケジュールの作成や詳細計画などを立案していかなければならない。また、アンケートから提案・課題として「構造」に関するものが多く寄せられ、調達では「納期」に関するもの、「特殊材・寸法」や「産地指定」「乾燥」が寄せられている。施工に関しては、「木材の品質」に関する、反り・ねじれ、乾燥割れ等があり、品質管理に苦慮していることが窺える。本事業により、具体的に明らかになったこれらの課題を解決することにより、さらなる木造の推進が図られる。

※本報告書は各ページ毎に1つの項目を記載することとし、全3ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は2枚を限度に本報告書に添付すること。